



# 部門別事業報告

VII 環境調査

VIII 母子保健

IX 健康支援

X 結核予防

XI 諸行事



# 環境調査

作業環境測定は有害物質の濃度や有害エネルギーなどの物理量を測定し作業環境の評価を行うもので、環境改善のための工学的対策を講ずるための重要な情報となる。種々の有害要因を減少させ、作業環境を適正に保ち、働く人々の健康障害を防止するための作業環境管理の基本となるものである。また、個々の労働者の有害物ばく露の管理手法として、個人サンプラーを労働者に装着して有害化学物質による個人ばく露濃度を推定する測定が導入され始め、作業方法の改善や保護具管理の重要な情報となっている。公共の建築物や学校などにおける揮発性有機化合物等の測定やダニ又はアレルゲン検査、公衆浴場などのレジオネラ属菌検査は化学物質や細菌等により健康を害することがないように継続的管理が求められている。

## ■実施状況

年度当初は東日本大震災により作業環境測定が一時的に減少したが、復旧が進むにつれて実施され年間の測定件数は前年度より増加した。作業環境測定（労働安全衛生法第65条によるもの又は準ずる測定）を実施した事業場は延べ420事業場（前年度426）であった。延単位作業場所は1,610箇所（前年度1,435）であった。作業環境測定以外の環境測定は、学校及び公共施設の室内空気環境中の揮発性有機化合物（VOC）の測定を中心に計292件であった。

## ■検査成績

延単位作業場所の管理区分内訳は、第1管理区分（作業環境管理が適切である）が1,174箇所（72.9%）、第2管理区分（作業環境管理になお改善の余地がある）が192箇所（11.9%）、第3管理区分（作業環境管理が適切でない）が241箇所

（15.2%）である。第2・第3管理区分を併せた436箇所（27.1%）は、作業方法の改善や工学的対策などの作業環境改善が必要となる。

測定項目別にみると、粉じん、特定化学物質及び騒音の第2・第3管理区分の割合が高くなっている。労働安全衛生法第65条によらない測定（管理濃度等が設定されていない物質、環境改善のための測定や検査など、評価基準による評価をしない測定）をその他の項目としており、558件と前年度241件を大きく上回った（表1）。個人ばく露濃度測定、石綿空気環境測定分析などの増加によるものである。

作業環境測定以外の環境測定の内訳は、揮発性有機化合物（VOC）の測定270件、レジオネラ属菌検査（公共浴場等）11件、石綿の室内空気環境測定11件であった（表2）。

## ■作業環境測定において実施している主な採取・分析方法

対象項目	採取方法	分析方法
有機溶剤	固体捕集法	ガスクロマトグラフ法
	検知管法	
粉じん	相対濃度指示方法	
	ろ過捕集法	重量分析法
金属	ろ過捕集法	原子吸光光度法
	液体捕集法	
特定化学物質	ろ過捕集法	重量分析法、液体クロマトグラフ法
	検知管法	
	液体捕集法	吸光光度法

■管理区分と管理区分に応じた講ずべき措置

(安衛法第65条の2第1項)

管理区分	作業場の状態	講ずべき措置
第1管理区分	当該単位作業場所のほとんど(95%以上)の場所で気中有害物質の濃度が管理濃度を超えない状態	現在の管理の継続的維持に努める
第2管理区分	当該単位作業場所の気中有害物平均が管理濃度を超えない状態	施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずるよう努める
第3管理区分	当該単位作業場所の気中有害物質平均が管理濃度を超える状態	①施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずる ②有効な呼吸用保護具の使用 ③健康診断の実施その他労働者の健康の保持を図るため必要な措置を講ずる

表1 測定件数・項目別事業場数・単位作業場所数

区分 (測定項目)	測定件数 *1	測定実施事業 場延数*2	延単位作業 場所数*3	延単位作業場所の管理区分内訳(割合%)*4		
				第1管理区分	第2管理区分	第3管理区分
計	14,197	420	1,610	1,174 (72.9)	192 (11.9)	244 (15.2)
粉じん(石綿を除く)	5,121	147	472	315 (66.7)	51 (10.8)	106 (22.5)
特定化学物質	1,323	109	190	123 (75.9)	13 (8.0)	26 (16.0)
金属	422	27	64	53 (82.8)	9 (14.1)	2 (3.1)
鉛	63	8	10	10 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
有機溶剤	4,733	261	714	602 (84.3)	63 (8.8)	49 (6.9)
騒音	1,953	41	156	40 (25.6)	59 (37.8)	57 (36.5)
その他*5	558	40				

\*1: 作業環境測定の結果の評価等に用いた測定点総数

\*2: 測定項目ごとの実施事業場延数(総数は1項目以上の実施事業場延数。ただし、その他の項目を除く)

\*3: 作業環境測定結果の評価を実施した延単位作業場所の項目ごとの場所数(単位作業場所: 作業環境測定結果の及ぶ範囲)

\*4: 各項目における管理区分ごとの単位作業場所数及び割合(割合は計算上、合計が100%にならない場合がある)

\*5: 作業環境測定であるが、結果の評価を実施しなかった測定の総件数及び事業場延数(分析のみの測定を含む)

表2 作業環境測定以外の環境測定実績

名称	根拠となる法令等	物質名等	測定件数
計			292
揮発性有機化合物(VOC)の 室内空気環境測定	官庁営繕部における平成15年 度からのホルムアルデヒド等 の室内空気中の化学物質の抑 制に関する措置について	ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、 トルエン、キシレン、エチルベンゼン、 スチレン	31
室内空気環境中の石綿測定	学校衛生環境の基準	ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、 p-ジクロロベンゼン	239
ダニまたはダニアレルゲン検査	学校衛生環境の基準	石綿粉じん	11
レジオネラ属菌検査	公衆浴場法および同法施行条 例、旅館業法および同法施行 条例に基づく検査	浴槽水中のレジオネラ属菌	11

# 母子保健

赤ちゃんの病気の中には、新生児期のうちに発見し治療を行うことで心身障害の発症を防止し、命の危険を回避することができるものがある。当協会では、岩手県の委託を受け、従来の対象6疾患に加えて平成23年2月より新たにタンデムマス検査が導入されて計25疾患を対象とした先天性代謝異常症検査の実施と、岩手県医師会の委託を受けて胆道閉鎖症マススクリーニング検査結果の集計を行っている。いずれも早期発見・早期治療を目的としたものである。

## 1. 先天性代謝異常検査

### ■実施状況

平成23年度の検査人数（初回採血）は10,271人であった。再採血（2回目）、再々採血（3回目）の検査人数はそれぞれ、438人、42人であった（表1-1）。また、体重2,000g未満の低出生体重児に対しては初回採血時が正常であっても体重が2,500gに達した時点などで再度採血することを勧奨している。平成23年度の低出生体重児は200人で、初回正常者135人のうち体重2,500gに達した時点の再採血（2回目）検査人数は93人（68.9%）、再々採血（3回目）検査人数は32人（34.4%）であった（表1-2）。

### ■検査成績

初回採血検査からの精密検査対象者数は70人、全体の0.83%であった。その内訳は、先天性甲状腺機能低下症（以下①とする）検査29人、先天性副腎過形成症（以下②とする）検査10人、ガラクトース血症（以下③とする）検査17人、アミノ酸代謝異常症（以下④とする）検査1人、有機酸・脂肪酸代謝異常症（以下⑤とする）検査6人であった。①と②検査の複数項目に所見

が認められたのは7人であった（表1-1）。当協会では、再採血（2回目）以降の検体についても再検査対象項目に関わらず、初回採血と同様に全項目を実施している。その結果、①検査11人、②検査2人、①と②検査の複数項目に所見があった2人が精密検査の対象となった。

また、低出生体重児の初回正常者のうち、精密検査対象となったのは15人、内訳は①検査11人、②検査2人、①と②検査の複数項目に所見が認められたのは2人であった（表1-2）。

### ■検査方法

生後4～6日の間に足の裏（踵）から極少量の血液を採取し、次の方法によって検査を実施した。

- ①先天性甲状腺機能低下症：酵素免疫測定法
- ②先天性副腎過形成症：酵素免疫測定法
- ③ガラクトース血症：ガラクトース脱水素酵素・マイクロプレート法
- ④アミノ酸代謝異常：タンデムマス法
- ⑤有機酸・脂肪酸代謝異常症：タンデムマス法

表1-1 先天性代謝異常等検査結果

( )内は%

初回採血	内訳	初回採血検体検査人数					10,271名	
		先天性甲状腺機能低下症	先天性副腎過形成症	ガラクトース血症	アミノ酸代謝異常症	有機酸・脂肪酸代謝異常症		
初回	正 常	10,178 (99.09)	10,166 (98.98)	10,110 (98.43)	10,261 (99.90)	10,183	(99.14)	
	要再採血	86 ( 0.84)	102 ( 0.99)	161 ( 1.57)	10 ( 0.10)	84**	( 0.82)	
	(1回目)要精密検査	7 ( 0.07)	3 ( 0.03)	0	0	4	( 0.04)	
再採血	正 常	82 ( 0.80)	81 ( 0.79)	144 ( 1.40)	8 ( 0.08)	81	( 0.79)	
	要再採血	1 ( 0.01) ※[31]	7 ( 0.07) ※[1]	0 ※[1]	1 ( 0.01)	0	※[1]	
	(2回目)要精密検査	3 ( 0.03) ※[5]	14 ( 0.14)	17 ( 0.17)	1 ( 0.01)	2	( 0.02)	
再々採血	正 常	11 ( 0.11)	8 ( 0.08)	1 ( 0.01)	1 ( 0.01)	1	( 0.01)	
	要再採血	0 ( 0.00)	0	0	0	0		
	(3回目)要精密検査	21 ( 0.20)	0	0	0	0		

※ [ ] : 2回目以降の検査で全項目の検査を実施することにより、新たに所見のあった人数

※※ 再採血（2回目）の未受診者が1名

表1-2 低出生体重児初回正常者の検査成績

( )内は%

低体重児 初回正常者 内訳	低体重児初回正常者検査人数					93名
	先天性甲状腺機能低下症	先天性副腎過形成症	ガラクトース血症	アミノ酸代謝異常症	有機酸・脂肪酸代謝異常症	
再採血 正常	68 (73.12)	89 (95.70)	92 (98.92)	93 (100.00)	91 (97.85)	
要再採血	23 (24.73)	2 ( 2.15)	1 ( 1.08)	0	2 ( 2.15)	
(2回目)要精密検査	2 ( 2.15)	2 ( 2.15)	0	0	0	
再採血 正常	12 (12.90)	0	1 ( 1.08)	0	2 ( 2.15)	
要再採血	0	0	0	0	0	
(3回目)要精密検査	11 (11.83)	2 ( 2.15)	0	0	0	

【追跡調査結果】

精密検査対象者85名（初回採血検査から75名、低出生体重児の2回目採血から15名）について医療機関に診断名等を追跡調査したところ、62名の回答を得た。（回答率72.9%）診断結果を以下の表に示す。

先天性甲状腺機能低下症5名（0.05%）、マルチプル(ホロ)カルボキシラーゼ合成酵素欠損症1名（0.01%）、CPT2欠損症1名（0.01%）が発見された。

診 断 名	件 数	%
一過性ガラクトース血症	5	0.05
先天性甲状腺機能低下症	5	0.05
一過性甲状腺機能低下症	10	0.10
甲状腺機能低下症疑い	1	0.01
一過性甲状腺機能低下症疑い	4	0.04
母体抗甲状腺剤内服中	2	0.02
一過性甲状腺機能低下症疑い・副腎機能低下の疑い	1	0.01
一過性17-OHP高値	7	0.07
マルチプル（ホロ）カルボキシラーゼ合成酵素欠損症	1	0.01
CPT2欠損症	1	0.01
VLCAD欠損症の疑い	1	0.01
高シトルリン血症	1	0.01
低出生体重児	8	0.08
正常	15	0.15
計	62	0.60

2. 胆道閉鎖症マススクリーニング検査

■実施状況

平成23年度、岩手県に出生届を提出した出生児9,334人のうち、約92%にあたる8,584人が検査を受けた。

■検査成績

検査人数8,584人のうち、1次スクリーニング陽性者は16人、陽性率0.19%であった（表2）。2次スクリーニングの結果は表2のとおりで、新生児胆汁うっ滞症が2人発見された。胆汁閉鎖症を疑い、3次スクリーニングの対象となった乳児はいなかった。

■検査方法

保護者が乳児1カ月健診時に、母子手帳に綴じ込みの便カラーカードへ便色調の番号を記入して提出する。1カ月健診担当医は便色を確認し、便色調番号が「1」「2」「3」の場合は1次スクリーニング陽性と判断し、2次スクリーニングを実施する。必要に応じて3次スクリーニングを実施する。

表2 検査成績

( )内は%

出生児数	9,334*1
検査人数	8,584 (92.0)
1次スクリーニング陽性者	16 (0.19)
2次スクリーニング結果〈人数〉	・異常なし〈13〉 ・新生児胆汁うっ滞症〈2〉 ・結果記載なし〈1〉
3次スクリーニング対象者	0

\*1 岩手県に出生届を提出した人数

# 健康支援

## 1. 健診の事後措置

### ■集団健診の対応

各団体が主催する事後指導会で、健診の結果説明の依頼を受け対応した。  
平成23年度の依頼数は、30団体、220回であった。

表1 団体内訳

団体	団体数	回数
計	30	220
市町村	1	6
事業所	28	212
学校	1	2

表2 職種・部門別内訳

職種	地域部門	産業部門	学校部門
計	6	212	2
保健師	2	171	2
管理栄養士	4	3	0
健康運動指導士	0	0	0
臨床心理士	0	38	0

### ■一日人間ドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。  
平成23年度実施数は、保健指導7,295名、栄養指導6,525名であった。ミニ栄養講話も実施した。

### ■レディースドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。  
平成23年度実施数は134名であった。

### ■専門ドックの対応

受診後日、結果説明来協にあわせて希望者へ、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。  
平成23年度実施数は、保健指導73名、栄養指導41名であった。

### ■労災保険二次健康診断の対応

二次健康診断対象者へ保健指導を実施した。  
平成22年度実施数は366名であった。

## 2. 定期健康相談事業

事業所が職員の健康管理や健康教育のため、外部の専門機関に保健師派遣を委託する。当協会はその受け皿として事業所と委託契約を締結し、保健師を定期的に派遣している。  
平成23年度、4団体へ計54回派遣した。

### 【事業内容】

- ・事業所職員の健康管理、健康教育
- ・日常の健康相談、保健指導
- ・健康診断の事後措置
- ・必要に応じ職場の巡回、環境管理のためのアドバイス、衛生委員会への参加など、産業医、事業主、衛生管理者等と密接な連携のもとに行う。

### 3. 相談員派遣

岩手産業保健推進センターにおける産業保健相談業務（産業衛生工学）の相談員として、平成23年度は25回派遣した。

### 4. 電話相談

当協会で開催している健康診断結果・検査等に関する相談や地域医療機関への情報提供等724件の電話相談に対応した。

表 団体内訳

団体	件数	主な内容
計	724	
市町村	399	結果・検査の意味・受診医療機関の選択
事業所	280	結果・検査の意味・受診医療機関の選択
学校	45	結果・検査の意味

### 5. 講演会講師派遣

平成23年度の派遣協力は、36団体1,178回であった。被災地健康相談事業のものが中心であった。

表1 団体内訳

団体	団体数	回数	主なテーマ
計	36	1,178	
市町村	4	40	健康ストレッチ・メタボリックシンドロームの予防
	8	982	被災地健康相談事業
事業所	22	146	作業環境管理・運動の必要性・メンタルヘルスについて
学校	2	3	生活習慣病予防・食事力をつけよう

表2 職種別内訳

職種	地域部門	産業部門	学校部門
計	1,029	146	3
保健師	323	11	1
管理栄養士	204	24	2
健康運動指導士	84	34	0
臨床心理士	0	22	0
労働衛生コンサルタント	0	55	0
看護師	346	0	0
その他	72	0	0

## 6. 特定保健指導

平成23年度より開始された特定保健指導の初回面接実施団体は、22団体であった。実施人数は、動機付け支援829人、積極的支援1,429人、合わせて2,258人であった。

区 分	初回面接実施人数		人
	地域部門	産業部門	
計	101	2,157	
動機付け支援	35	794	
積極的支援	66	1,363	

## 7. メンタルヘルス事業

特に職場において需要が高まっているメンタルヘルス事業の一貫として健診時に合わせてストレスチェックを実施している。平成23年度は23団体、17,229件であった。

団 体	団体数	ストレスチェック件数	備 考
事業所	23	17,229	※緊急健診事業含む

※緊急健診事業：「東日本大震災の被災労働者に対する臨時の健康診断事業」に加えてストレスチェックを同時実施（厚生労働省による）

## 8. 研修会等開催

健康教育研究会、生活習慣病健診従事者指導講習会を開催した。詳細は次項『諸行事』『研修会等の開催』参照。

## 9. 健康げんき倶楽部

会員制のヘルスサポートシステムで、健康度評価・血液検査後、保健師・管理栄養士・運動指導士による健康づくりを全面的にサポートしている。会員は、トレーニング施設「気良楽（きらら）」の利用が可能である。平成24年3月現在の会員数は131名である。



# 結核予防

## 1. 検診事業

部門別事業報告（学校保健・地域保健・産業保健）に記載

## 2. 複十字シール運動の展開

複十字シール運動は結核対策事業資金造成のための募金活動である。当協会ではNPO法人岩手県地域婦人団体協議会と共同で運動を展開

運動期間：平成23年8月1日～12月31日

後援：岩手県、岩手県議会、岩手県市長会、岩手県市議会議長会、岩手県町村会、岩手県町村議会議長会、岩手県保健所長会、岩手県教育委員会、岩手県PTA連合会、岩手県医師会、岩手県歯科医師会、岩手県薬剤師会、岩手県看護協会、岩手県放射線技師会、岩手県臨床衛生検査技師会、JA岩手県五連（JA岩手県中央会、JA岩手県信連、JA岩手県厚生連、JA全農いわて、JA共済連岩手）、岩手県国民健康保険団体連合会、岩手労働基準協会、岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、NHK盛岡放送局、岩手県栄養士会

実績：大型シール	494枚（ 652枚）	*（ ）内は 22年度実績
小型シール	16,492枚（ 30,600枚）	
募金総額	2,304,740円（3,573,612円）	
うち岩手県地域婦人団体協議会の実績	1,510,000円（2,556,500円）	

## 3. 普及啓発および広報活動

### ■平成23年度結核予防街頭キャンペーン

「盛岡市保健所フェスタ2011」（盛岡市主催）で同時実施

日時：平成23年10月1日（土）

場所：盛岡市保健所

協力：NPO法人岩手県地域婦人団体協議会、盛岡市地域女性団体協議会

内容：複十字シール募金、普及啓発グッズ（パンフレット、オリジナルポケットティッシュ・メモ帳・風船等）の配布

### ■ポスター・チラシ等の配布

配布場所：市町村、教育委員会、保健所、県立病院、公共施設など

### ■広報誌の配布

『健康いわて』（第258号～第263号）（財団法人岩手県予防医学協会発行） 隔月 3,000部

『複十字』（No.339～343）（公益財団法人結核予防会発行） 隔月 400部

『健康の輪』（全国結核予防婦人団体連絡協議会発行） 年3回110部

#### 4. 各種会議、研修事業へ参加

〔開催日、開催地、参加人数〕

■結核予防会東北・北海道ブロック会議	〔平成23年10月13日、山形市、4人〕
■放射線学科フォローアップコース	〔平成23年10月27～28日、東京都、2人〕
■東北地区結核予防婦人団体幹部研修会	〔平成23年11月10～11日、秋田市、3人〕
■胸部画像精度管理研究会	〔平成23年12月8～9日、東京都、2人〕
■結核予防全国大会	〔平成24年2月13～14日、大阪府、4人〕
■事業協議会総会・全国支部事務局長研修会	〔平成24年2月24日、東京都、1人〕
■診療放射線技師研修会	〔平成24年3月7～9日、東京都、2人〕
■本部主催の各種会議への参加	

# 諸行事

## 1. 理事会、評議員会、監事会等の開催

[開催日]

### (1) 理事会

■第1回理事会 [平成23年6月23日]

公益財団法人移行申請について報告された。平成22年度事業報告、平成22年度収支決算報告、新施設建設用地の取得について審議、決議された。

■臨時理事会 [平成24年2月10日]

公益財団法人移行後の役員に対する報酬等支給規程ならびに旅費規程見直しについて審議、決議された。

■第2回理事会 [平成24年3月16日]

公益財団法人移行申請、新施設建設予定地の取得決定、新施設の建設等、理事の辞任について報告された。土地購入のための長期借入金、平成23年度収支補正予算（案）、平成24年度事業計画（案）、平成24年度収支予算（案）、平成24年度常勤役員報酬（案）について審議、決議された。

### (2) 評議員会

■第1回評議員会 [平成23年6月21日]

公益財団法人移行申請について報告された。平成22年度事業報告、平成22年度収支決算報告、新施設建設用地の取得について審議・承認された。

■第2回評議員会 [平成24年3月15日]

公益財団法人移行申請、新施設建設予定地の取得決定、新施設の建設等、理事の辞任について報告された。土地購入のための長期借入金、平成23年度収支補正予算（案）、平成24年度事業計画（案）、平成24年度収支予算（案）について審議・決議された。

### (3) 定期監査

■第1回定期監査 [平成23年5月26日]

組織運営、平成22年度事業報告書、収支決算報告書について監査を受け、適正であることを認められた。法人の財産状況、理事の業務執行状況について監査を受け、不備がないことを認められた。

■上半期定期監査 [平成23年11月18日]

平成23年度上半期は震災による事業の遅れがみられるため、今後の進捗を注視するよう指示があった。法人の財産の状況、理事の業務執行状況について定期監査を受け、不備がないことを認められた。

## 2. 学術専門委員会、小委員会の開催

[開催日]

### (1) 学術専門委員会

■眼底検査専門委員会 [平成23年6月2日]

[平成24年3月8日]

■呼吸器系検診専門委員会 [平成23年7月25日]

[平成24年3月26日]

■ウイルス肝炎対策専門委員会 [平成23年10月29日]

■乳がん検診専門委員会 [平成24年3月7日]

■循環器系検診専門委員会 [平成24年3月9日]

■脊柱側弯検診専門委員会 [平成24年3月22日]

■消化器系検診専門委員会 [平成24年3月26日]

### (2) 小委員会

■心臓検診小委員会 [平成23年5月12日]

[平成24年3月14日]

■脳ドック小委員会 [平成23年7月26日]

### 3. 関係機関担当者会議の開催

[開催日、開催地、参加人数]

#### (1) 学校保健関係

■平成23年度学校保健連絡会議 [平成23年12月15日、盛岡市、140人]

報告事項：平成22年度学校保健分野健診・検査実施状況

協議事項：平成24年度学校保健事業計画骨子（案）

平成24年度変更事項

講演：「災害と子どもの心のケアについて」

講師：宮城県子ども総合センター 所長 本間博彰

#### (2) 地域保健関係

■平成23年度市町村健康推進担当部課長会議 [平成23年10月31日、盛岡市、87人]

行政報告：「東日本大震災津波による保健活動について」

岩手県保健福祉部健康国保課 健康予防担当課長 藤尾修

「岩手県における感染症対策の概要等」

岩手県保健福祉部医療推進課 感染症担当課長 工藤啓一郎

事業説明：健診業務の効率化を目指して

中途失明を防ぐために

呼吸機能検査とCOPD

報告事項：平成22年度健診・検査実施状況

平成22年度住民健診有所見率

平成23年度健診・検査実施及び予約状況

平成24年度地域保健事業計画骨子（案）

東日本大震災への対応について

講演：「東日本大震災から何を学ぶか ～地域保健医療の再生に向けて～」

講師：自治医科大学 地域医療学センター 教授 尾身茂

■平成23年度保健活動検討会 [平成24年2月29日、盛岡市、138人]

報告事項：平成22年度健診結果・追跡調査結果

平成23年度健診・検査実施状況

平成24年度地域保健事業計画骨子

変更事項について

COPD慢性閉塞性肺疾患について

行政報告：「東日本大震災津波による避難者に係る特定健康診査受診機会の拡充について」

岩手県保健福祉部健康国保課 主任主査 伊藤孝行

主査 中野真美子

特別講演：「放射線の影響とリスク」

講師：東京医療保健大学 看護学研究科 教授 伴信彦

基調講演：「健康づくりへの新たな取り組み」

講師：岩手大学保健管理センター 教授 立身政信

パネルディスカッション：『特定保健指導の取り組みについて』

助言者：岩手大学保健センター 教授 立身政信

報告者：矢巾町生きがい推進課 保健師 立花泰子

花巻市健康づくり課 主査 久保田和子

岩手県立大学看護学部 講師 松川久美子

座長：岩手県予防医学協会企画管理部 部長 米澤慎悦

### 4. 研修会・講演会等の開催

[開催日、開催地、参加人数]

#### (1) 第27回健康教育研究会

[平成24年1月13日、盛岡市、57人]

内容：「震災後の子どもの心を支援する人のための心のケア研修会」

- 講 師：ケア・宮城代表、宮城学院女子大学  
 名誉教授 畑 山 みさ子
- 講 師：岩手県立大学社会福祉学部福祉臨床科  
 准教授 井 上 孝 之
- (2) 特定健康診査等従事者講習会 [平成24年2月7日、盛岡市、69人]
- 講 義：「眼底検査の意義、所見解説」 財団法人岩手県予防医学協会 腰 山 誠  
 「眼底検査の方法、撮影手技と機器の保守管理」  
 財団法人岩手県予防医学協会 高 橋 直 光  
 「当協会のデータを使用した解析報告 ～糖尿病関連～」  
 財団法人岩手県予防医学協会 斗 成 陽 子  
 実 習：「HPLC法の検査データの見方」 財団法人岩手県予防医学協会 高 橋 文 枝  
 講 演：「HbA1cの臨床的有用性と国際標準化」  
 講 師：東ソー株式会社バイオサイエンス事業部  
 マーケティング部 新 藤 義 之
- (3) 騒音従事労働者労働衛生教育講習会 [平成24年3月14日、金ヶ崎町、23人]
- 内 容：「騒音の人体に及ぼす影響」  
 関東自動車工業(株)岩手健康管理センター 所 長 中 屋 重 直  
 「適正な作業環境の確保と維持管理」  
 「防音保護具の使用方法」  
 「改善事例及び関係法令」  
 財団法人岩手県予防医学協会 関 向 和 明  
 〃 小 山 正 範  
 〃 三 浦 一 人  
 〃 中 澤 英 彦
- (4) 平成23年度地域肝疾患アドバイザー養成研修会 [平成24年3月25日、盛岡市、42人]
- 講 義：「HBV・HCVキャリアの実態」 財団法人岩手県予防医学協会 小 山 富 子  
 「B型肝炎の知識」  
 岩手医科大学内科学講座消化器・肝臓内科分野 助 教 官 坂 昭 生  
 「C型肝炎の知識」 あべ菜園内科クリニック院長 阿 部 弘 一  
 「岩手県の肝炎対策と診療ネットワーク」  
 岩手医科大学内科学講座消化器・肝臓内科分野 教 授 鈴 木 一 幸  
 「肝炎患者に対する支援方法」 岩手医科大学附属病院看護師長 三 浦 幸 枝  
 「肝炎患者からの相談内容等」 肝友ネット代表 阿 部 洋 一
- (5) 学術講演会
- 肝疾患診療ネットワーク研修会 [平成24年10月19日、盛岡市、86人]
- 講 演：「岩手県における医療助成制度の現況」  
 講 師：岩手県保健福祉部医療推進課  
 感染症担当課長 工 藤 啓一郎  
 「肝疾患の診療・連携医療の現状」  
 講 師：岩手医科大学内科学講座消化器・肝臓内科分野  
 助 教 官 坂 昭 生
- 特別講演：「C型肝炎 最近の話題」  
 講 師：大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学  
 教 授 竹 原 徹 郎
- (6) 第16回医用超音波基礎講習会 [平成24年1月7日、盛岡市、50人]
- 講 師：日立アロカメディカル株式会社 武 藤 和 彦

## 5. 普及啓発および広報活動（再掲）

### ■普及啓発

結核予防週間における街頭キャンペーン、新聞広告掲載、市町村健康まつりへの協力  
ポスター・チラシ等の配布

### ■広報誌の配布

『健康いわて』（第258号～第263号）	（財団法人岩手県予防医学協会発行）	隔月	3,000部
『複十字』（No.339～343）	（公益財団法人結核予防会発行）	隔月	400部
『健康の輪』（全国結核予防婦人団体連絡協議会発行）		年3回	110部

## 6. 職員研修

[実施回数、参加人数]

### ■内部研修会の実施

交通安全講習会	（新人職員、新採用臨時職員）	[ 1回、50人]
安全運転講習会	（本所にて）	[ 2回、321人]
	（県南センターにて）	[ 2回、144人]
中堅職員研修会		[ 2回、50人]
平成24年度新人職員事前研修会		[ 1回、19人]
職員研究発表会		
職員全体研修会		[ 1回、460人]

### ■外部研修会へ参加

#### 【主催別内訳】

財団法人予防医学事業中央会関係研修会		[ 3回、9人]
公益財団法人結核予防会関係研修会		[ 4回、8人]
公益社団法人全国労働衛生団体連合会関係研修会		[ 10回、18人]
社団法人日本作業環境測定協会関係研修会		[ 3回、7人]
その他		[106回、191人]

#### 【職種別内訳】

医師関係		[ 5回、7人]
保健師関係		[ 12回、14人]
臨床検査技師関係		[ 37回、52人]
放射線技師関係		[ 18回、31人]
作業環境測定士関係		[ 4回、8人]
看護師関係		[ 7回、12人]
栄養士関係		[ 4回、4人]
事務関係		[ 60回、105人]

## 7. 研究発表等

[開催日、開催地]

■第32回作業環境測定研究発表会	[平成23年11月16～18日、栃木県]
「作業環境測定士の有害物ばく露について」	関 向 和 明
■第49回日本消化器がん検診学会東北地方会	[平成23年7月8～9日、盛岡市]
「胃部X線検査における粘膜萎縮度の検討 ～一日人間ドックで発見された胃がん症例について～」	久保田 憲 宏
「人間ドックで発見された腎炎症性筋線維芽細胞性腫瘍の一例」	瀬 川 主 子
■第21回乳癌検診学会学術総会	[平成23年10月21～22日、岡山市]
「乳房超音波検査とマンモグラフィ併用検診の検討」	三 浦 由 美

- 日本消化器がん検診学会東北地方会超音波部会第7回セミナー [平成23年3月10日、仙台市]  
「嚢胞性腫瘍にて人間ドックを経年受診していた膵癌の一例」 佐藤 務
- 第1回東北放射線医療技術学術大会 [平成23年10月15～16日、盛岡市]  
「JSGIファントムを用いたDRとFPDの画像比較について」 久保田 憲宏
- 第23回診療放射線技師総合学術大会 [平成23年9月17～18日、青森市]  
「対策型検診における読影の補助について」 久保田 憲宏
- 第22回日本疫学会学術集会 [平成24年1月27日、東京都]  
「LH比と高感度CRPを組み合わせることによって中年女性心筋梗塞発症を効率的に予測できる」 斗成 陽子
- 第46回予防医学技術研究会議 [平成24年2月16～17日、高崎市]  
「血圧脈波検査CAVI・ABIについて」 遠藤 あゆみ  
「膵臓超音波所見と血中膵型アミラーゼ値の関連」 半田 有希  
「健診機関による大災害時の支援活動について」－岩手県沿岸被災地での活動を通して－ 高橋 絵美  
「岩手県における東日本大震災被災市町村の住民健診実施報告について」 瀧 音守  
「胃部X線検査により発見された胃がん症例の粘膜萎縮度の検討」 女鹿 孝徳  
「成人貧血検査における年代別基準値について」 川村 未希子

## 8. 調査研究事業

- 東日本大震災被災者の健康状態等に関する調査
- 岩手県北地域コホート研究
- 厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略）  
「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験」
- 厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業  
「慢性閉塞性肺疾患（COPD）のスクリーニング手法の評価と今後の課題に関する疫学研究」
- 厚生労働省肝炎等克服緊急対策研究事業  
肝炎ウイルス感染状況・長期予後と予後調査および治療導入対策に関する研究

## 9. 事業年報の発行

平成22年度事業年報Vol.40の発行 2,050部

## 10. 各種表彰の受賞

- 財団法人予防医学事業中央会関係  
平成23年10月28日、平成23年度予防医学事業推進全国大会の席上で、高橋雅子、相馬明美が奨励賞を受賞
- 公益社団法人全国労働衛生団体連合会関係  
平成23年11月2日、全衛連平成23年度運営研究協議会の席上で折坂美知子が功績賞を、大坪正和、高橋直光が奨励賞を受賞
- その他の団体関係
  - ・平成23年6月23日、平成23年度岩手健康保持推進等推進協議会総会の席上で松尾洋一が全国T H P 推進協議会功労賞を受賞
  - ・平成23年7月8日、紫波地区安全運転管理者部会総会の席上で佐々木正、高橋るり子、小山正範が優良運転者表彰を受賞
  - ・平成23年10月12日、平成23年度全国産業安全衛生大会の席上で十和田紳一が緑十字賞を受賞
  - ・平成24年2月1日、平成23年度岩手県地域医療従事者感謝状贈呈式の席上で工藤和美が岩手県保健医療功労者表賞を受賞

## 11. 予防医学事業中央会にかかわる事業

[開催日、開催地、参加人数]

### ■各種会議・研修会等へ参加

平成23年度全国情報統計研修会

[平成23年8月25～26日、静岡市、5人]

平成23年度予防医学事業推進全国大会

[平成23年10月28日、横浜市、6人]

平成23年度予防医学事業推進東北ブロック会議

[平成23年11月25日、仙台市、5人]

平成23年度全国業務研修会

[平成24年2月2～3日、松山市、3人]

平成23年度予防医学技術研究会議

[平成24年2月15～17日、高崎市、8人]

平成23年度医師協議会

[平成24年3月2～3日、東京都、4人]

### ■本部主催の各種委員会・協議会へ参加